

豊岩地区の伝統文化

やまはげ

1 歴史、概要

代々大切に保存されてきた面、木片やゴム、笹の葉で作った口笛と木製の出刃包丁を持って、ケボシ（藁帽子）ケダシ、ヨブスマ、タンゼンを装着したりして、1月15日の夜に各家を歩く行事であり、子どものしつけの他、五穀豊穰、家内安全なども祈願する。

豊岩前郷中沢の真山神社（明治末に豊平神社に合祀）のご神体が「やまはげ」の鬼面だったと伝えられている。田村麻呂の妻がこの地で旅の途中に出産したことが由来との説もある。



2 「やまはげ」継承のための取組み

- ◆豊岩地区の豊岩前郷・豊岩小山・豊岩居使・豊岩石田坂・豊岩中島・下浜檜田・下浜八田の各町内では、「やまはげ」の伝統文化の保存・継承に努めている。
- ◆保存・継承活動は、豊岩小山の国見会（保存会）、豊岩中島の中島ヤマハゲ保存会のほか、各町内の青年会が中心となっている。
- ◆現在のところ、継承者の減少やコロナ禍の影響等により、活動を休止せざるを得ない町内がいくつかあるものの、多くの町内が大切な伝統文化の保存・継承活動を継続している。

3 その他（主な年中行事など）

■石田坂鹿嶋祭り

- ・雄物川沿いに発達した集落が連なりあって構成されているため、かつては海運の要衝の地であった。石田坂には、橋渡しの番所があったため、雄物川流域各地で見られる、鹿嶋流しの風習が見られる。豊岩中学校でも、鹿嶋流しに使用する人形作りを行っている。

■庚申

- ・仏教由来の青面金剛尊を拝む講中の風習がある。